社

弘大CO ネクスト

2013年、22年には国のプロジェ 増進プロジェクト(岩木健診)」を を展開している。 性化につながるさまざまな取り組み 発するなど、健康寿命延伸や地域活 た「QOL(生活の質)健診」を開 継続して健康関連のデータを蓄積。 クトの拠点となり、データを核にし した。大規模な住民健診「岩木健康 (弘前大COI-NEXT)が受賞

ベルの研究拠点を目指して、さらに の健康と幸福に関する世界トップレ PEAKS)」の採択を受け、心身 色ある研究大学強化促進事業(J-人きく飛躍しようとしている。 ルの中核研究大学として認められ 25年1月には国の「地域中核・特 積み重ねてきた実績から、世界

健康未来イノベーション研究機構 や健診の受診率の低さなど、要因は を掲げて始まった。本県は男女とも 酒や喫煙の問題、塩分摂取量の多さ 85年から最下位が続いている。飲 に平均寿命が短く、特に男性は19 いし、今後の推移も注視したい。 岩木健診は05年に「短命県返上」

第45回陸奥新報社賞を、弘前大学

たということで、県民としても誇ら

取り組みが自治体や事業所なども巻 割を果たしてきたと言えるだろう。 き込み、県民の意識改革に大きな役 岩木健診が注目を集め、貴重なデー その後の活躍は言うまでもない。

QOL共創研究所を開設し、共同研 学や企業などが増え、明治安田とは タの蓄積が進むにつれ、連携する大

さらなる飛躍を期待

05年以前は少数派だったと思う。 ると考えていた人は少なくとも20 題は自覚しつつ、本気でどうにかな いろいろ言われてきたが、県民も課 岩木健診をはじめとするさまざまな 実現に向けた機運が高まってきた。 にではあるが全県的に健康寿命延伸 そんな中、岩木健診が始まり、徐々

いう。 座を視野に交渉が進められていると を受賞し、高く評価されている。 究講座は24に。第1回日本オープン 業も複数あり、共同研究講座は33講 イノベーション大賞内閣総理大臣賞 (最高賞)をはじめとする多数の賞 現在、同大との連携を検討中の企 多くの知見を持つ企業や大学

> 開発目標)の次の国際目標として、 外で関心が高まっており、30年まで らに広がりや深度を得るはずだ。 る動きもあるのだとか。 持続可能なウェルビーイングを掲げ とされているSDGs(持続可能な かで幸せな状態を指す。近年、国内 が参集することで、 イングは心身および社会的に健や 最も新しい研究テーマ、ウェルビ 今後の研究はさ

ある地域づくりに大きく貢献してく 地域経済の活性化をもたらし、魅力 ることを願っているし、そこまでの 民の健康と幸福度を底上げしてくれ を中心にどう進んでいくのか、注目 過程においても新ビジネスの創出や したい。研究の成果がいずれ地域住 断できる研究が、今後この弘前の地 そうした世界が注目し、世界に

れることだろう。期待したい